雜記

鎌倉幕府職員考
鎌倉幕府服制

栗原柳庵稿本

十

京乙
10
316

栗原柳庵自筆草稿

祿令講義

日本紀私讀本　一之上下　二之上下

同緒言

同系圖

日本紀歌解義

雜記

合十冊

十

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

鎌倉幕府職員考

政所（マンドコロ）　建久三年八月八日政所始と東鑑かゝ
日是を七月十二日征夷大將軍に任じ給へ
故を以て然らゝ是將軍政務乃如と知へし此
処に直を役人別當令案主知家事乃職あ
り大とへゝ令ゝ將軍家司の長官を職員令職
事一位二位三位の家令と同し此時將軍正二
位なれゝ二位乃家令一人（相南後世上）と後（ノチ）一人（相南）

明治
44.5.30
購求

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

正八位下 大書吏一人 相模少初位上 少大吏一人 同上

但今あるを後かゝ書吏ばかりて業を知家事あ
るを蓋業を書吏ふしく知家事い判官ふる縁
と同し別南い今乃ち主を南直をるい故し
別南とを

藏人所ふ頭乃ち別南を遣れ検非使い左
右衛門佐ふ其上し別南を遣れたる故
ふ別南とをし

建久三年ふい前因幡守中原廣元前下総守源
邦業二人を別南とをふさる同年九月十二日沙
下文ふ

将軍家政所下　常陸国村田下庄　下妻宮等

補任地頭職事　左衛門尉藤原朝政

右去寿永二年三郎先生義廣叛逆被企謀亂爰朝政
偏仰朝威獨殺相御宗即侍其官軍同年二月二十三
日於下野国野本宿合戦之刻抽軍功早仍彼時

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

所補任地沽職也庄官定所不可違失之状所仰
如件以下

建久三年九月十二日　　紫之殿丹
知家事中原

令　民部少丞茂弘

別当前因幡守中原朝臣

下　総守源朝臣

右乃ゆくゑの　ゝ式令の連署の源ゝ比技とゝ

令別當ゝ長官ゝ紫主知家事ゝ史と掾の欠
と知らかくて後鹿島朝秀ゝ賜くゝし沽ゝ文
ゝ

将軍家政所下　　平朝秀

可令早領知常陸国徳宿御内畑田

冨田大郎田七江澤已上四箇村地頭職事

右人任親文秀幹去年十月廿日譲状所載

可領知之状所仰如件以下

文暦二年閏六月十六日

案主兼源時盛奉行

家事内舎人清原判

令左兵衛尉藤原判

別當相模守平朝臣判

武蔵守平朝臣判

世々四位兵衛尉に叙時相模守に時房も世々執
権と云と是は私称ふく改所に別当と云ふ事
なし

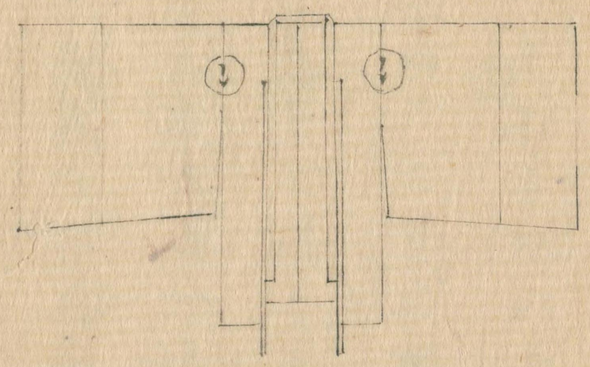
透素襖

大舎人助源亮行装束書ハ六七月に透素襖着用
八月朔日より布を用ふると何時よりとこそを
聞を祖父甲斐守雅職の記より康和二年六月をき
をとうふく出仕と見えたれば其より前とて
行ふにしるべ

亮行は大舎人助雅亮のゝ雅亮仁平年間の
人なれば其子文治建久の間の人とおらる透

素襖い越後布を染くさせ西月用人は伊勢
宗又の記よりも越後布といい今のチビこん
又素襖の上下(カミシモ)かくふい裏義ら迫ナ又をい苦
しからしとしも

透素襖



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

木蘭地直垂

源平盛衰記 巻ノ一 都筑太郎肌ふい白き帷子服五

白き袷の小袖一重木蘭地の直垂赤皮鎧白星兜

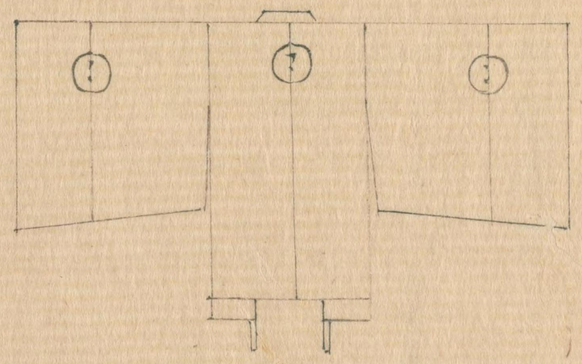
廿四差黒羽胡籙四尺六寸の太刀熊皮の尻鞘重

反の弓真中とり鳥黒の馬金覆輪の鞍

都筑太郎い畠山重忠の一乃郎等と自身ふ

り畠山たゝ無官無位の兵士も其郎等とえい

畠山の家人かしく秩父郡郷の巫ケ非人と

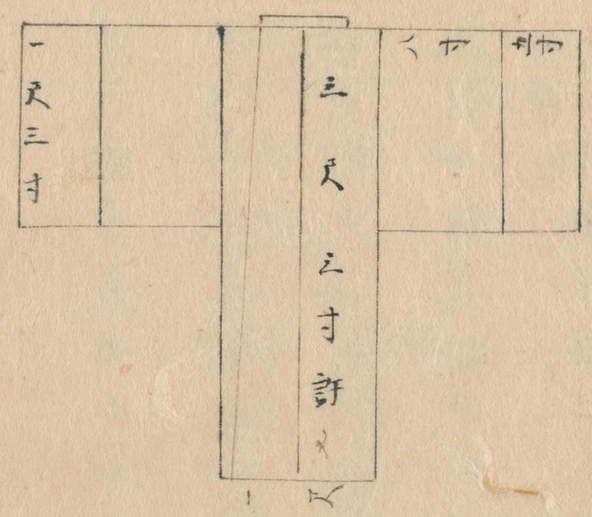


知へ〳〵其都筑太郎鎧の下ハ直垂と著たり即
鎧直垂たりと論おく富山の郎等本田榛澤と
とゝめ數百人とか都筑ハ劣るいからに是を
以て鎧直垂ハ貴賤の別おきて明けし木蘭地
ハ木蘭の樹皮かく染しを本とれとも中古
以来黄櫨也と云 今義解ハ黄櫨い黄黑色なる
おおし

鎌倉幕府服制

鎌倉幕府の時浄衣水干直垂の服あり浄衣ハ
建久二年正月廿八日丁丑晴幕下為二所御精
進出御于由比浦著水干云〻令浴潮給後被改
著浄衣云〻 二月四日癸未前大將家二所御參
云〻 右大將家 御浄衣 次御後 浄衣 之烏帽子 有宿老
芦屋馬
宮廿六人十日自二所御歸著 東鑑ハ是
よりこ二所条詣ハ今 ハ悉く因く参ハ此條ハ依

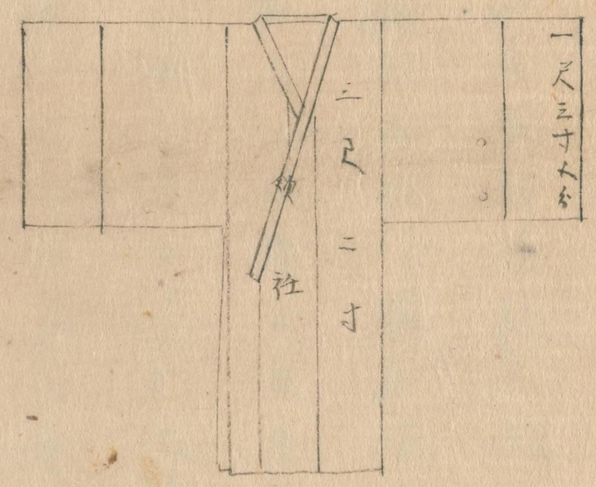
八水于八直垂よりて上(アガ)て浄衣八令く神事ハ用
ひらるゝと知(シラ)る浄衣の裁制(タチカタ)左乃如し



浄衣身布一幅ハ六尺七寸許
袖布一幅ハ八尺二寸許
衽(ヱリ)布一幅ハ三尺四寸許
布ハ一丈八尺三寸許を用ふ
和銅八年閏十二月制小冠位朝服自今以後皆
着褪黄(アサキ)衣裌(ソテ)廣一尺二寸以下ともなれば冠位の
袖ハ一尺二寸迄に制すしも用ひ浄衣袖一
尺三寸あるハ和銅の定めの丈長せしものと

知へし同時小諸司人等衣服し作式袖狭少或
猶太長又狂し相違甚浅行趨し時易用必是し
服大成令孔宜令所司厳加禁止云々諸司の
輕きもの縫も衣ぬ者あるしと聞也
又一種乃浄衣を見る長い三尺六寸小して袖
ハ一尺三寸大る領ハ直領小裁て其る制た
る注文あり
布袴式文　浄衣六領ハ

長三尺二寸　袖一尺三寸大ハ　ハタ袖
領社よのいね　ヲ幅
二所供奉の料なるもの〻ハ建久の例
たるへし　ているうわんの用
右小衣ハ考ふれいよる出せ〻い將軍家の御
新御よし〻ハ知い供奉の面〻の着用と知
る十二丈を六領ハ二丈宛と云



布二丈を以て右の浄衣を裁制(タケスノ)し左の如し

落髪人衣體

源平盛衰記小平相國入道生衣(スシ)ノ帷(カタビラ)ノ脇(ワキ)ヲ

ルニ赤地錦ノ鎧直垂ニ腹巻シテ

同字治合戦の条ニ筒井浄明妙春餝方(シカヤ)ノ褐布(カチン)

ノ錦直垂ニ紺頭巾(シノトキン)ニ黒糸威ノ大荒目ノ鎧ノ

一枚ヤセナルヲ草摺長ニ上リ下シ三枚兜ノ

緒ヲシメ黒塗ノ太刀ノ三尺五寸アルニ練鍔

入熊皮ノ尻サヤ同毛ノ貫黒(ツラヌキ)塗ノ胡籙ニ塗箭

ニ黒羽ノハヲ刻タル矢ノ廿四サシタルニ七
度ナルヤユミノシノ塗ニヌリタルニヌリ弦
カケ烏黒ノ馬ノ七寸ニハツミタルニ黒鞍並
テ熊ノ皮ノアヲリヲ差テノ乘タリケルニ
又同満院大夫慶秀ハ白帷(シロキ)ノ腹(ワキ)タルニ黄大ロ
衣ヲ前黄ノ腹巻ニ袖付タリ矢切但馬明禅ハ
剛腹(ワキヤワラカ)ケル褐布ノ帷子ニ白キ大口ニ洗皮ノ腹
巻ニ射向ノ袖ヲヲ付タリケル各長刀服ハサ
ミ鞘ヲ傾ケテ三ツ五ノ服ニ長刀ノハサミ太
ノ手ニ三尺五寸ノ太刀板持テ敵ノ射矢ヲ切
ントス
又源三位入道ハ薄墨染ノ長絹ノ直垂ニ品河
産ノ鎖着ハサト甲(カブト)ハ義者(キ)サリケリ
長絹ハ絹ノ名幅(ハバ)一尺九寸長サ(ナガ)丈七尺以寸
を一疋とし延喜主計寮式ニ四四組絶(キヌアシキヌ)
いひれも幅一尺九寸かしら長さ丈、ヨリ然

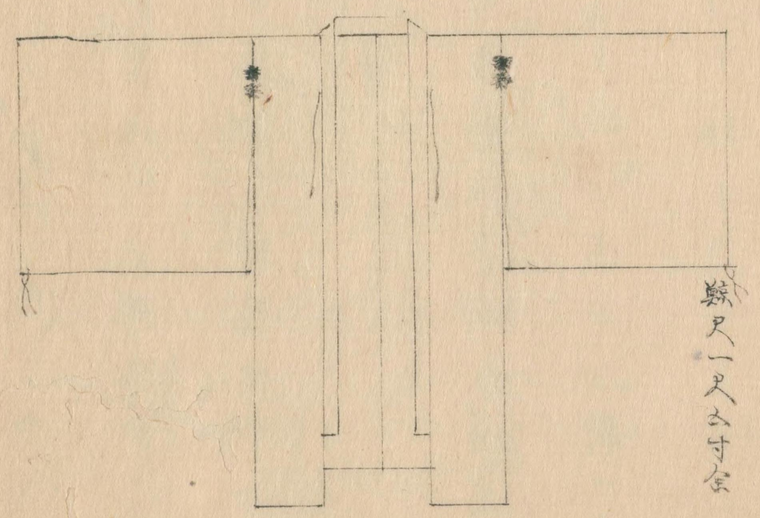
る小幅一尺九寸長七丈七尺四寸のものを
長絹と名付く[illegible]何の義と云を知る不審
[illegible]古法文小袖ひたしをらち[illegible]
七尺八寸ふく袖の料　七尺八寸ふく身の
料　七尺八寸ふく領巾の料
をへく三丈七尺八寸ふく
と云をいく考ふれい袖の長一尺八寸七分
又麁ふく縫代とも裏[illegible]一けふく二けふく
一丈八尺

（鯨尺ふく一尺八寸ふく袖とも今人小袖とも
八寸ふく　又低鯨尺一尺に寸
ふくる　又七尺八寸を以く直垂の身とふた
即三尺七寸八分ふく縫代共に鯨尺ふく三
尺五寸ふく襖の長ふく比ふれい漸長し是平常
家居の服おれいふるへし因くナガキヌと
唱しら自然と長絹と轉せしふや[illegible]
八七尺八寸と定められしも注文ふくよく
解ず大道頼政卿落髪人と云のこ道世者か

ら沢故、て長絹々々ウスヽミ色ふ染て服キ玉ひ

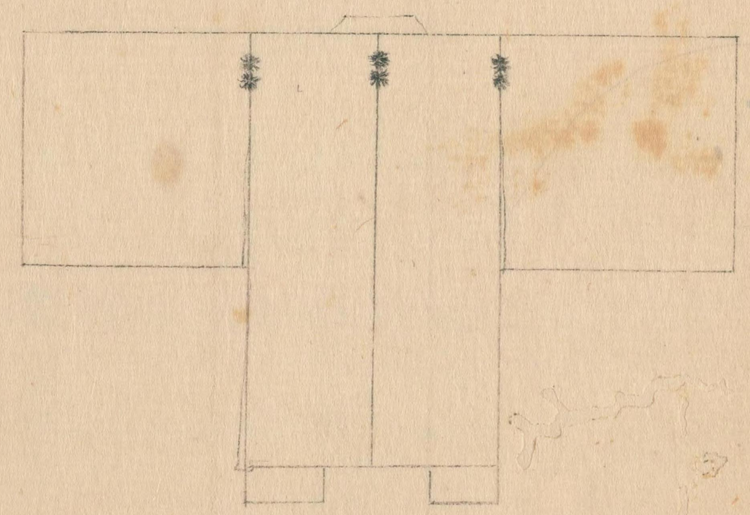
おて

薄墨染長絹直垂



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

同後



頼政卿長絹の直垂といあれとも袴のてい
何とも記(シル)されを直垂と云い袴も同しく直
垂の袴かるへきに色も亦薄墨染かるしや詳
らかならす白袴かるしも子細あるへきなら歟袴の
裁制い直垂の
除ふ詳らし
腰刷(ワキアテ)たる褐布の帷子い冷泉(イレイセン)八幡(ヤワタ)を深く明(アケ)
たるを白丈(シラタケ)に成半丈(ハンタケ)かるへし白帷子(シロタヘカタビラ)
の腰刷(ワキアテ)たるも丈と同し黄丈(キタケ)なも同しく

大ハシ少大ニハ小袖の上ニ服ものを是ニ
人ハ直垂を服を帷子の上ニ腹巻を着し慶
秀ハ左右の袖を著用禅ハ射向一方ハのミ
はし
浄妙房用者ハ褐布の鎧直垂きて紺の頭巾
と云頭巾ハ即兵士の頭巾ならし思ふられと
紺と云ハ即長頭巾なるへし

一遍上人繪詞所載頭巾

を長頭巾と云

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

此時治承四年八月廿六日も直垂の下ハ服立
白き袷の小袖と云ハ白き涌立染と云詞なき
涌立染ハ今云立涌染も小袖ハ前ハ云ハく袖
ハ八寸袖付一尺ハ裁しと云白き帷子を肌ハ
著しとハ今云白布の一重襦袢と知へし是条
と以て当時兵士の軍装を思ふへし義貞記体
源抄ハ浴衣練貫とあるハ肌衣を累せしも今
出川義視卿京を忍び出るに体裁ハ下面の時

肌ふ前黄ロ練貫(ネリヌキ)ふ褐(カチ)のふ袖赤地段子の袴

ニくと應仁記ふ云たるを考合とへし

腋闕(ワキカキ)帷子(カタビラ)

源平盛衰記 入道院冬金の条ふ生絹(スヽシ)の帷子の

腋闕(ワキカキ)たるふ赤地錦の澄直垂ニ 先師是を大帷子のことゝ

いくれしい偶(たゞ)

語られしし

又宇治合戦の条ふ慶秀ハ白帷子の腋闕たる

ふ黄文に着(キ)くゝ

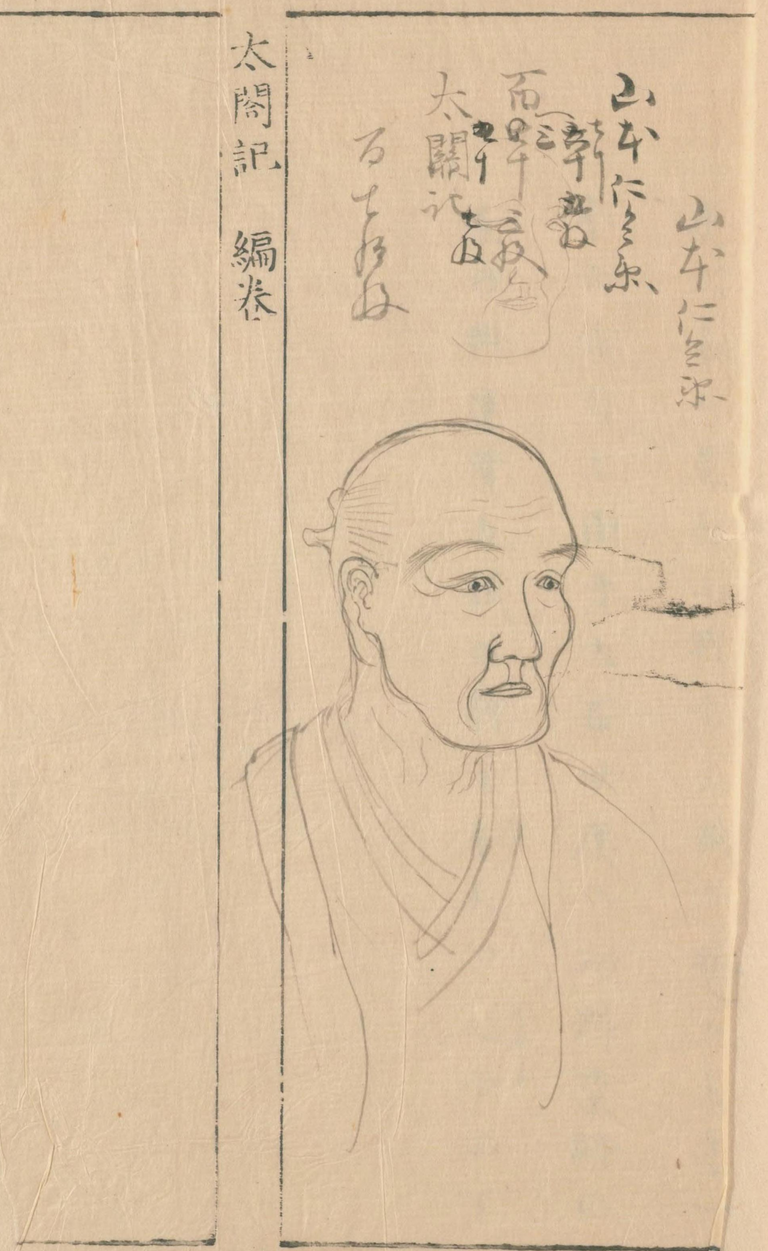
曽我物語 兄弟出立の条ふ白き帷子乃腋深く

闕たるふ村千鳥の直垂の袖を結くゝ肩ふかけ

大〻丈郎ら裝束ふい狩の小袖の腋ふかく闕
たるを狩場の用意ゝやはたまけんからさゆ
その直垂よ蝶を二ツ三ツ処こふきたるふ紺
地の袴括ゆるらかゝくせゝ
右河ゝ四丈用の服ゝれい腋今ゝ八ツ口を風入
のたゝ深く開たるゝ丈郎十郎の直垂
ゝ袖の少ゝ直垂なゝ今の直垂と思人へらら
ゝ帷子い單の服ゝ大帷ふあらん後ふ十九の

布の帷子ゝ丈ゝ丈日ふ美着伊勢貞敏条條国ゝふ出といひ
又ハ十九の布の湯帷子故実雅国ゝふゝゝの大
帷と同ゝからゝゝいゝでゝゝ知し
十九ゝいたゝへい糸に筋を一かゝゝ長
さい一端分ふゝゝ一疋分ふゝゝ同しに十
筋をい把ゝ一よゝゝとゝゝ一たゝ西土ふゝ
一升ゝゝ十九よゝゝ七百六十筋ふ上糸
下糸合せゝゝ子丈百廿筋ふゝ一尺九寸曲尺の

小織立る所れい一寸ふ八百十筋ほど一分ふ八十筋
ふと其布の精細ふるてゝ知へし越後縮の上ミ
品ハ三升と三千八百に十筋ゝ迫弘い縣尺
一尺曲尺一尺二寸又分所れい曲尺一寸ふ百に十七
筋余ゝ頓て十九の布の一倍ゝ上品廿升ゝ
ふ六百筋ゝ一寸ふ百廿八筋を用ゝ一尺ふ
九百廿四度手を動かとれい一端ゝ二万
三ふ九百廿度所ゝ丈物い二万七ふ六百



太閤記　編巻

度ふ面ゝ是を小判金三枚ふ換うとき一足
金六錢目ゝ織手九百廿度の功料染師の功
糸の料運賃包紙の料と分れい色ふのとゝ

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

白帷子腋閉（ワキカキ）。

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

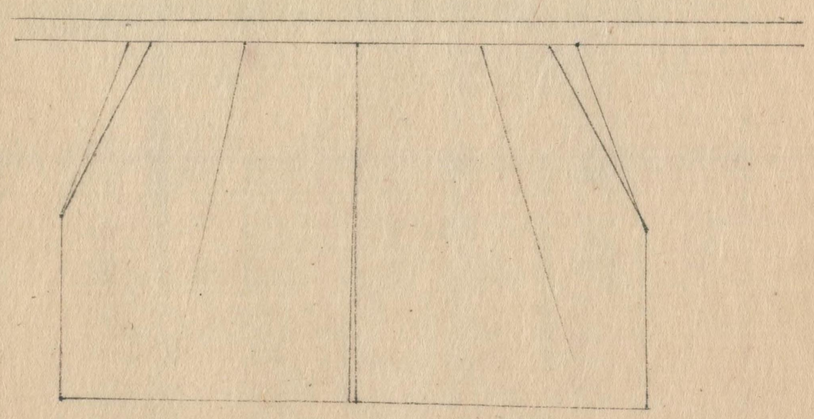
素襖上下(カミシモ)かくこと

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

大口袴

前後共同し
く襞を取

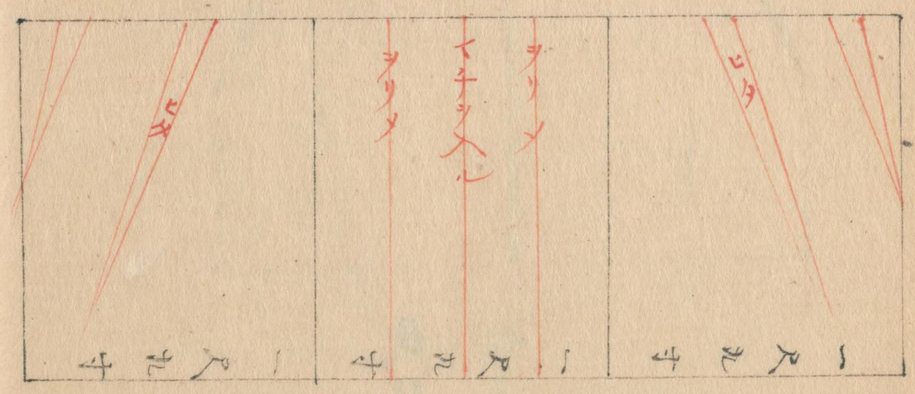


長さ
膝なく

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

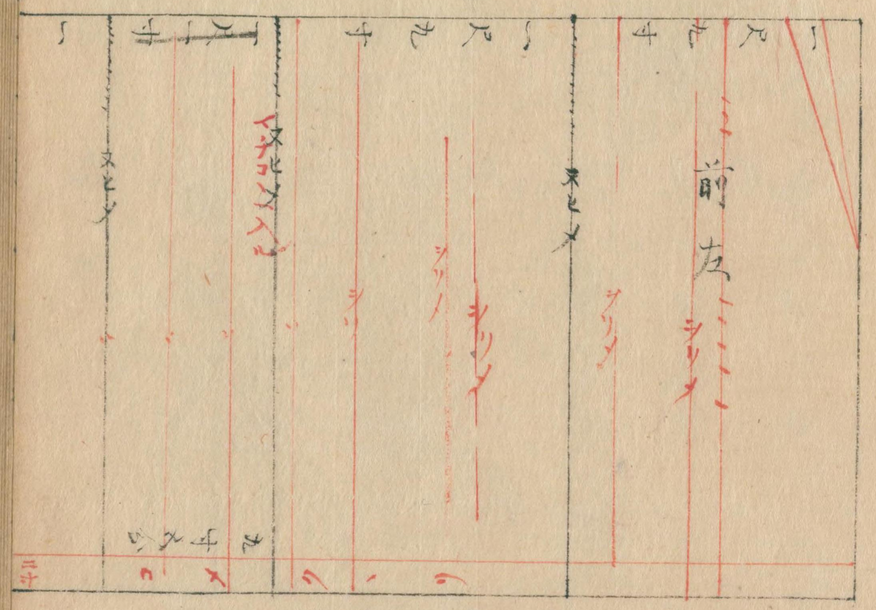
ガラス使用

左右合せて
六幅なり



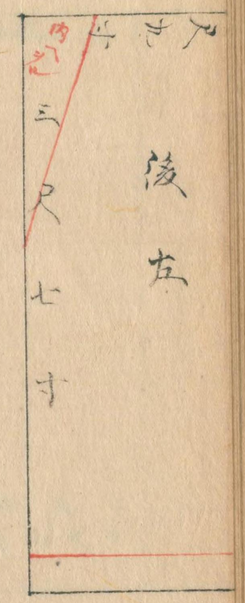
襷袴裁制

三尺七寸
四幅半合せて
一丈四尺八寸
左右ふたつ
幅二丈八尺
九寸も即二



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316
ガラス使用

文六尺を以
て濟一具て
作るへし



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316
ガラス使用

時頼公鞠の門

天文頃
將軍の
門番の
体と
知し

門番
侍
烏帽子
衣たるし
衣さゝら
あり

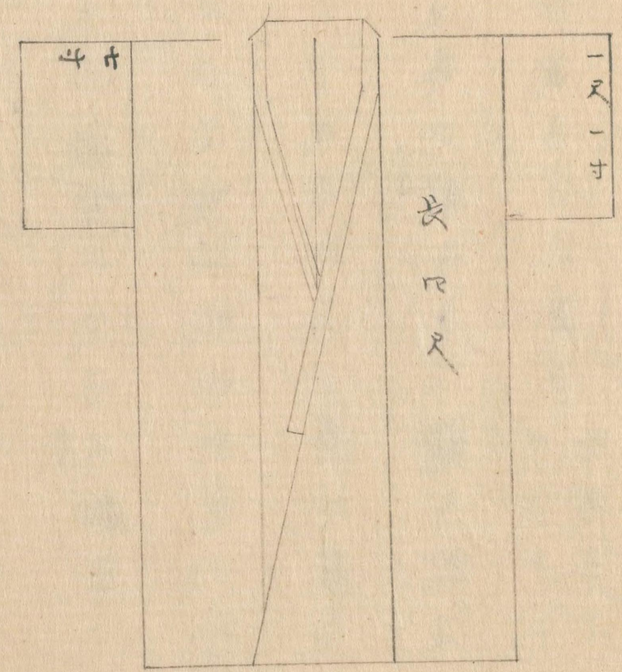
国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

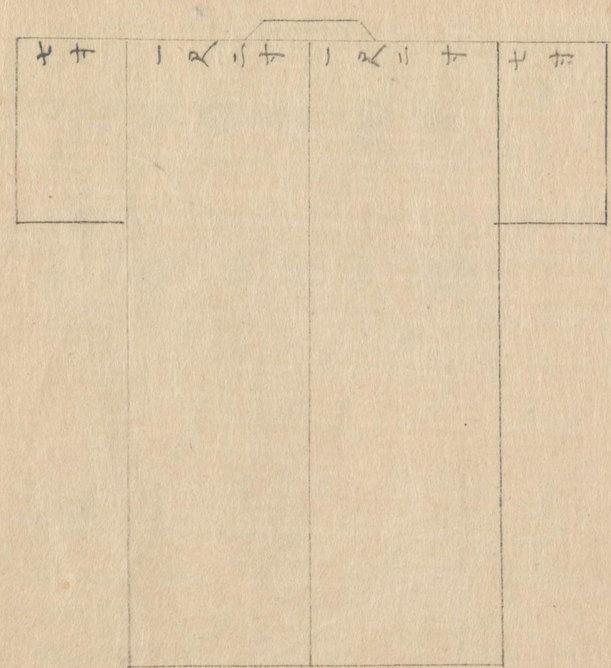
又手形し

延喜齋院式ふ荷領表衣細布二丈　又車副手振取物擔夫等衣笠二丈と云細布い弘一尺九寸と云計式ふミ四山城國大原小野等賤民の服し手形しと云もの あり著用集し下藉の著手形しと云布の服をきて鎌を腰ゝし編笠を著たゝあらもの ふゝ ソテナシを云へきを省きて云う略シ例せいソビヱをヒヱと云ソトサヤをトサヤと云ソトイテをトイテと云ふと思合へし

手形



同後



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用

身前衣代尺

九尺

身前衣四尺

九尺

帯小用人

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京Z-316
ガラス使用

身後丈

延喜主計式に細布（ナイフ）一尺九寸なる黐尺（ちもち）

ふ〳〵一尺又寸二分ふ有る一尺二寸い即九

寸六分シ袖弘七寸い又寸六分シ長に尺い

三尺二寸と云へし一遍上人繪詞伝ふ手ふ

〳〵と着（キ）たる賤人多く見えたる左し紗出し

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316
ガラス使用

鎌倉頃庶人体

一遍上人繪詞所載

正和年中小者女一処ニ[illegible]

今ヨリ八百六十年前の体ニ

花園院御宇

鎌倉

守邦親王

胴服をきて

歩行の体

即今の

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

日蓮上人注畫賛 京本圖寺藏

天文六年丙申初秋侯於若州遠敷郡後瀬山麓長源寺註畫了し訖

畫工洛陽滄所窟田義古兵法尉統泰

初祭師安立院權大僧都日改春秋十八

右跋ふるい後奈良院御字ふしく將軍い義晴

之乃時なり今文久二年より三百二十七年前の

体と知へし因こに付絵を拙出しく南時貴賤の衣

服を知シラしむ

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

ひき柳直垂

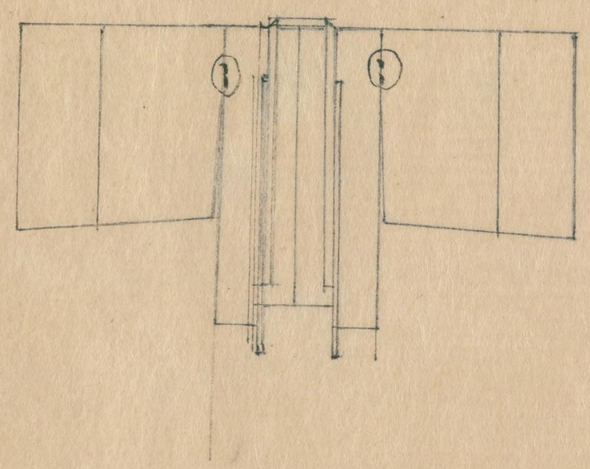
古本平家物語ふ惟能い縁塗烏帽子ふひき柳の直垂うちかけ引肩あいくゝの絃をさしかけ居たる処へ惟村かへり来るを是武士平常家居の体を知へし縁塗名おしいだんしを柳深ふく染ふ染てふ縁とふ塗たるをひき柳といい柳色の薄きを云古き文を見えたを左と記を

前い切たり

表の華嚴經　栁尾蕊

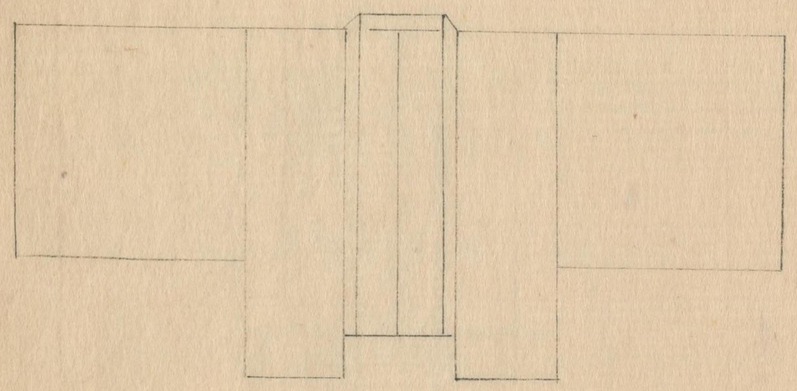
国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316
ガラス使用

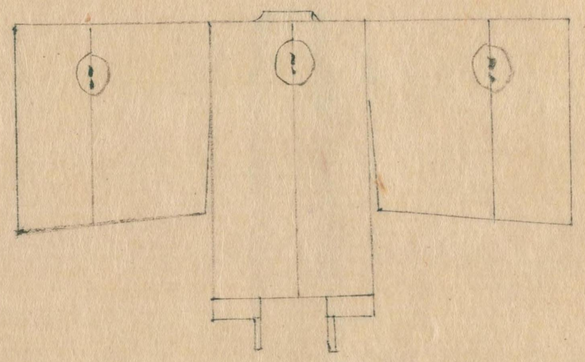
素彌



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用



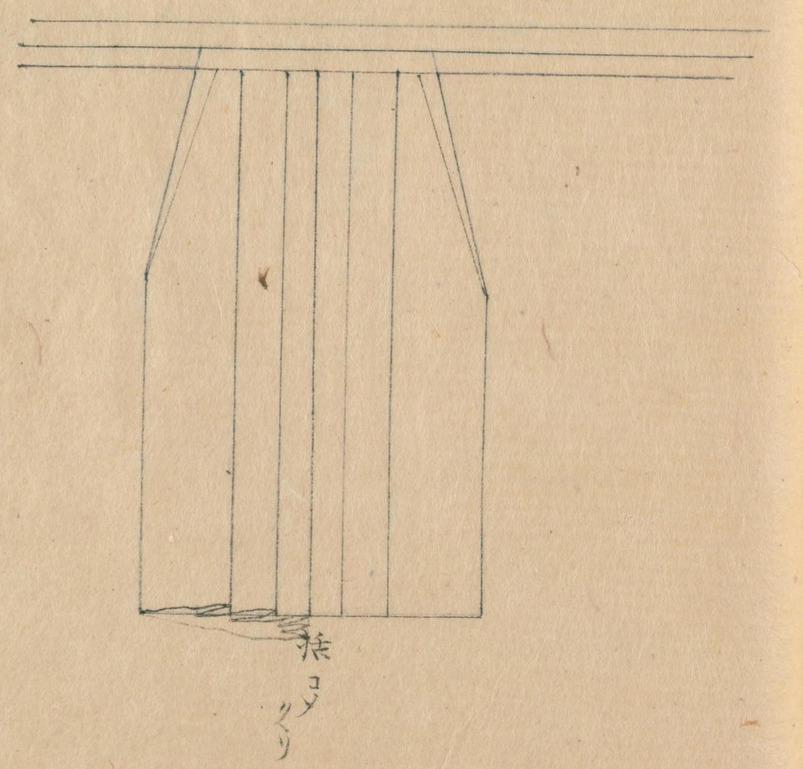


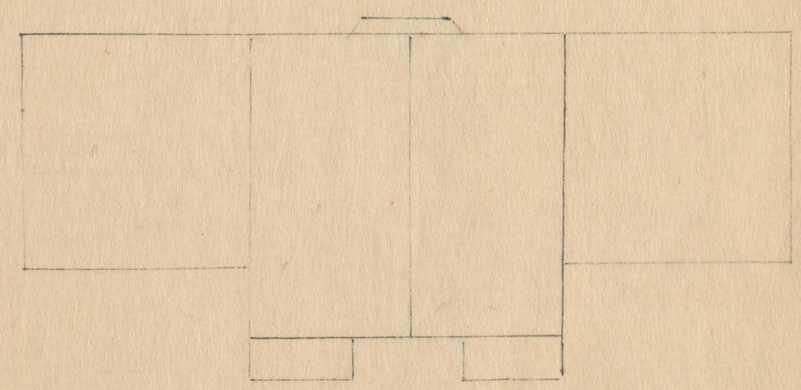
国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用

襖袴

表前

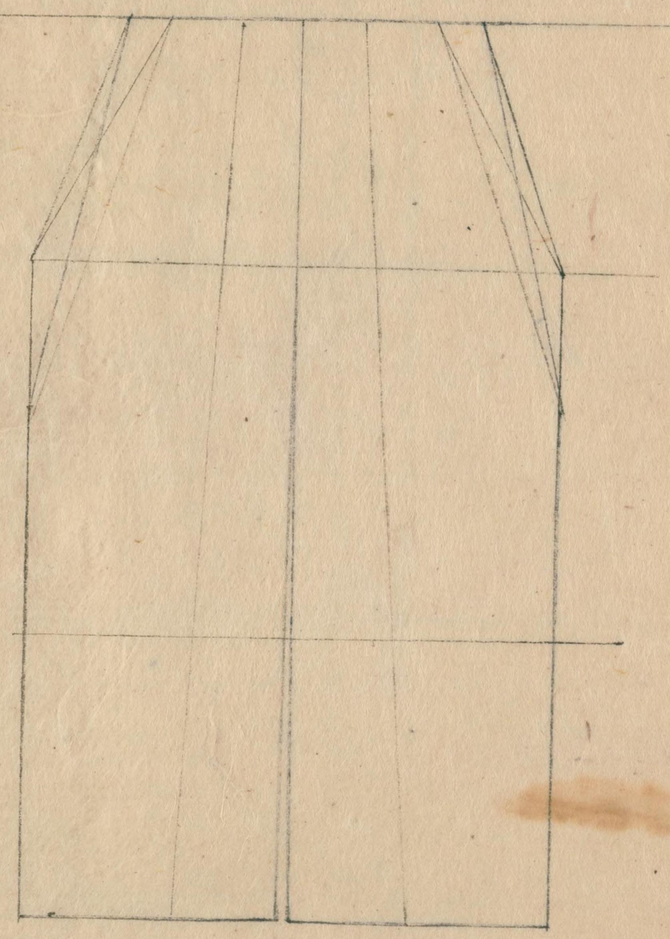




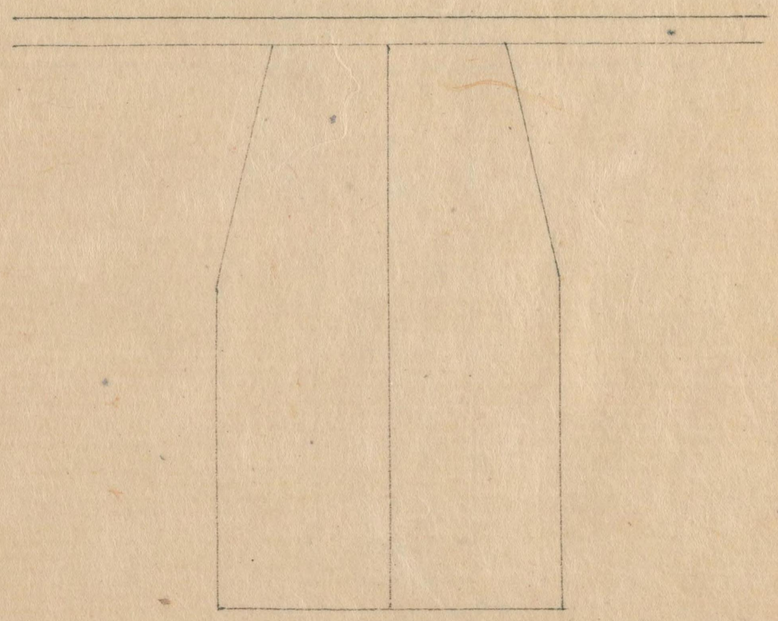
国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316
ガラス使用

葛袴

前



後



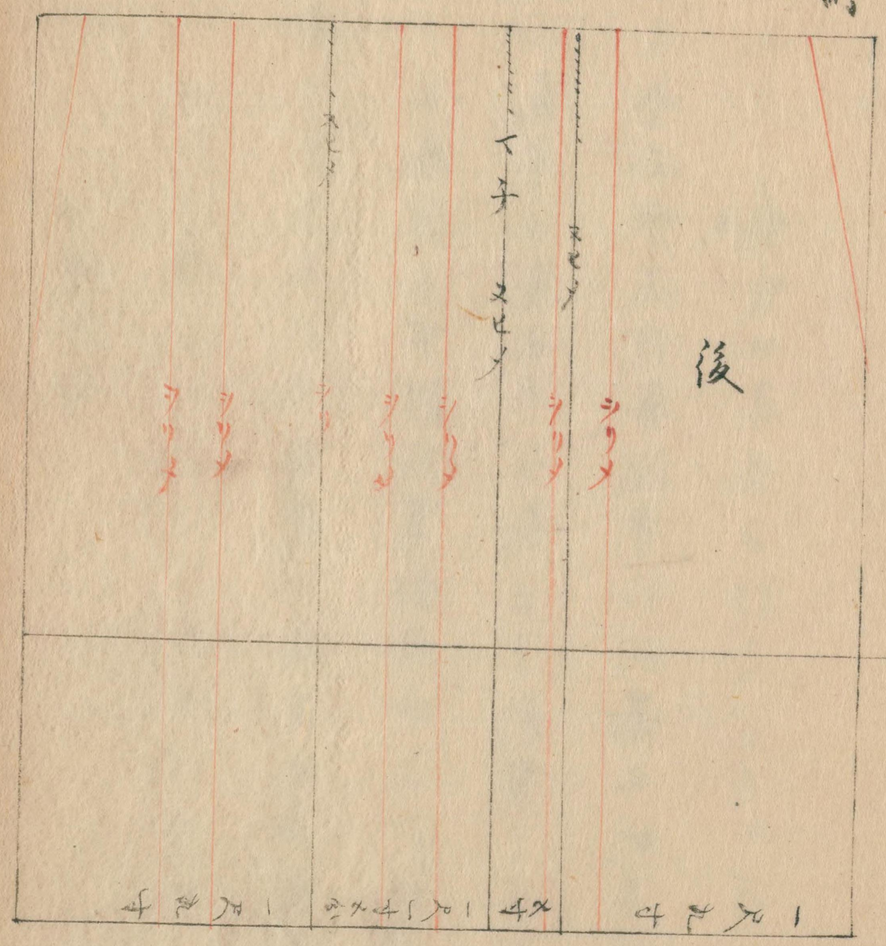
国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用

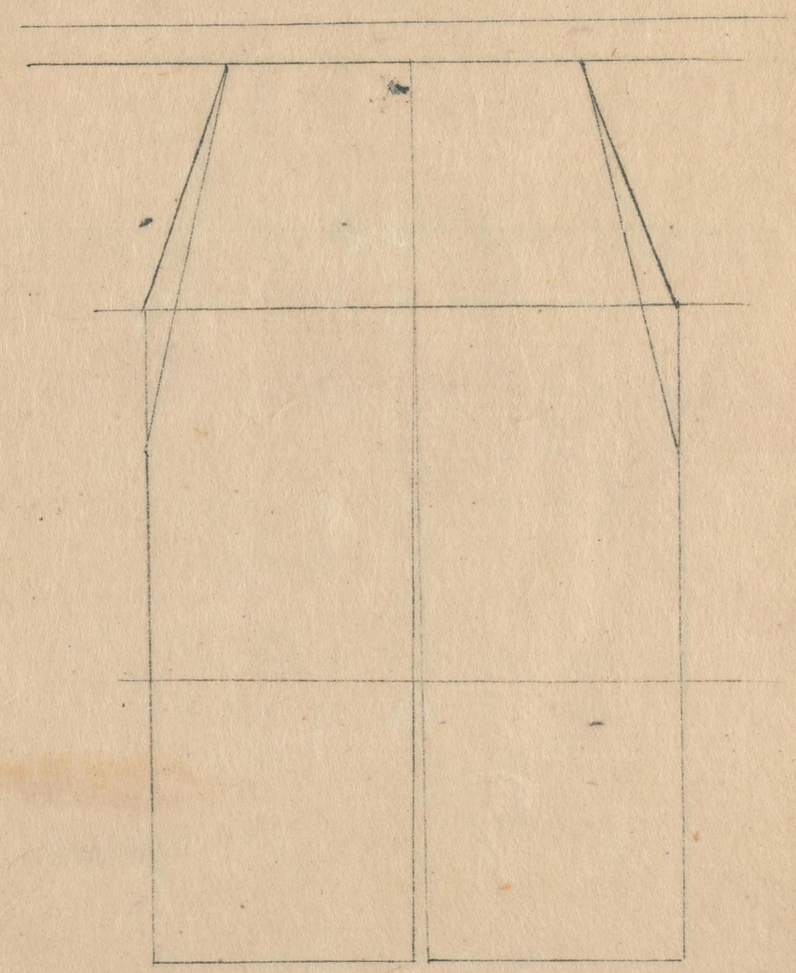
葛城
裁制

仝幅
二尋
小幅
二尋

後



後



国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』　請求記号 京乙-316

ガラス使用

常用褌よりも二寸許短し

褌褌い千紫万常永乃物と云大下褌も同し

く一具したるものも葛褌い富木又郎亂継

乃物と云亂継も下総国葛飾郡中山乃地頭

も建治元年日蓮上人の師として剃髪したる

常と云今正中山法華経寺の開基と成葛褌

如何ふして。鎌倉比企谷より伝てこの得て

もふ孫出し人

京乙
第10
316

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『日本紀私読本』 請求記号 京乙-316

ガラス使用